

A

B

C

D

社会を支える4つの基盤

なぜ今、シン経済教育が必要なのか

中学・高校「公共」経済ユニット 授業プラン紹介

夏休み経済教室 2026

筑波大学附属中学校非常勤講師 新井 明

A 市場

B インフラ

C 生活

D 政策・制度

今の経済教育、何ができているか

今の教科書の順序

- 1 希少性の定義
- 2 需要と供給
- 3 市場均衡
- 4 価格メカニズム

これは「経済学を学ぶ者の入口」であって
「生活者の入口」ではない

生徒に起きていること

- 需給曲線は覚えたが、物価高と自分の生活の関係は説明できない
- 社会保障制度の名前は覚えたが、自分が受益者だと気づいていない
- 労働基準法は習ったが、不当な扱いを「違法だ」と思えない

生徒や先生の問題ではない — 「入口の設計」の問題

このプログラムの経済観

経済とは、私たちの暮らしを みんなで支え合う 社会の仕組み



希少性だから選ぶ必要がある → 分業と交換の方が効率的 → つながりには信頼が要る
信頼があっても残る不公正 —— 効率と公正は対立しうるが、両立を目指す

具体から抽象へ — 生徒が「肌感覚」で理解できるように

社会を支える4つの基盤

A

市場

つくる・売る・働く

生産・交換・価格・競争・雇用・消費

B

インフラ

運ぶ・つなぐ・届ける

物流・決済・通信・交通・エネルギー・公益

C

生活

生きる・学ぶ・備える

安全・健康・教育・災害対応・社会保障

D

政策・制度

調整する・守る・支える

契約・労働法・独禁法・消費者保護・税・財政

4つはバラバラではなく、つながっている。どれかが止まると他にも影響が出る。

学びの設計思想

1

具体 → 抽象

先に場面・物語・驚きがあり、概念は「後から登場する」。人は具体的な経験を通じてしか抽象を「自分のもの」にできない。

2

肌感覚での理解

経済用語を覚えることが目的ではない。社会の中で「自分もその参加者だ」と実感できることを目指す。

3

先生の役割の再定義

「答えを教える」のではなく「生徒の思考を交通整理する」。先生は経済学の専門家である必要はない。高校版の教師メモには、生徒の「なぜ」に動じないための背景理論を「参考」として付す。

中学版 | ケンジとアカリの物語

全11講 — 同じ場面を見て違うことを考える二人の対話

森ケンジ（15歳）

「効率・損得・仕組み」から考えるタイプ
「なぜそうなっているのか」を問う

村田アカリ（15歳）

「公正・誰が困っているか」から考えるタイプ
「それはおかしい」に敏感

序盤はすれ違い → 中盤で互いの視点に気づく → 終盤「誰のための経済か」を自分の問いに

①暮らしはつながっている

②生産者間のつながり

③取引を支える信頼

④市場競争とルール

⑤消費者保護

⑥働く意味・権利

⑦公益サービス

⑧公共財と税

⑨社会保障

⑩社会全体のバランス

⑪国際経済

中学版サンプル | 第1講

あの夜、当たり前が止まった

停電2日目の朝

台風で停電が続くケンジの町。冷蔵庫が止まり、隣家の一人暮らしの田中さんは薬が切れかけている。ケンジは家族の食料を守るべきか、田中さんを助けに行くべきか迷う。アカリは「電気が止まっただけで、なぜ全部が止まるのか」と問う。

今日の問い 私たちの「当たり前の毎日」は、どんな仕組みに支えられているのだろうか。

授業の流れ

- 1 物語を読み「自分ならどうするか」を書く
- 2 グループ議論：なぜ決めにくいのか
- 3 「なぜふだんはうまくいくのか」を問い返す
- 4 まとめ：4つはつながっている

今日の持ち帰り 当たり前の毎日は、市場・インフラ・生活・制度が全部動いて成り立っている。

高校版 | リーダーとして意思決定する

全10講 — 実データに基づくケーススタディで判断を迫られる

自治会長

停電3日目の朝

暮らしはつながっている

調達本部長

1,000円のTシャツの向こう側

サプライチェーン

審査官

推しのサブスクが値上がりした

市場競争とルール

プロダクトマネージャー

解約ボタンが見つからないアプリ

消費者保護

市長

最後のバスが廃止される

公益サービス

所長

AIに仕事が消えた先輩

労働市場とキャリア

すべての講に「学校生活に近づけた改変例」 — 生徒会・文化祭・部活動の場面に置き換え可能

高校版サンプル | 第1講

停電3日目の朝

役割：田中町自治会長・緊急対策本部長

大地震から72時間。電気・水道・通信が止まり、隣人の要医療者は行方が分からない。食料備蓄は8時間分。隣の集落からも支援要請が届く中、限られた物資をどう配分するかを迫られる。

住民180名／避難所到達94名／要医療者7名（連絡取れず3名）
／食料備蓄8時間分／支援到着まで18～30時間

選択肢

- A：本避難所の住民だけに配給する
- B：近隣も含めて広く分配する
- C：配給を一時停止し追加支援を要請する

この問いの本質

インフラ・制度・市場・生活——4つの基盤のどれかが機能していれば、この選択は不要だったかもしれない。あなたの決断を正当化するために、どの基盤への事前投資が本当に必要だったのか。

ディスカッション・クエスチョン例

「自治会長」という立場が、あなたの判断をどう変えるか。個人としての判断と、地域全体を代表する立場での判断はどう違うか。

このプログラムが目指す到達点

「当たり前の毎日はどうのように成り立つのか」

この問いへの答えは、第1講と最終講で変わっているはずだ

第1講

経済に関心を持っていない
「なんとなく毎日が過ぎている」



最終講

自分は経済社会の参加者だという自覚
「次はどんな社会にすべきか」を考えられる

目標は概念の暗記ではなく、個人・企業・政府の選択が、他者の暮らしや社会全体にどのような影響を及ぼすかを自分の言葉で説明できるようになること

先生方へ

完成品ではありません

経済教育ネットワークの「教科書見直しプロジェクト」で、篠原総一先生（ネットワーク代表）・佐藤英司先生（福島大学）が示された経済教育の考え方と授業構成案をもとに、エコノミストと教員の協働、そしてAIとの対話から作られたサンプルの一つです。

一コマからでも

全ての講を使う必要はありません。第1講でも第3講でも、まず一コマだけ試してみてください。うまくいかなければ教科書に戻れます。

自分バージョンを

学習指導要領を否定するものではなく、その構造を変えようとする試みです。ぜひ自分の教室に合わせて作り替えてみてください。

経済学として誠実であること と 教室で使えること の両立を目指しています

社会の変化を入口にした授業の組み立て方は、佐藤先生のパートで詳しく解説されます。

ありがとうございました

社会を支える4つの基盤 — 中学・高校「公共」経済ユニット

A 市場

B インフラ

C 生活

D 政策・制度